

2023 年度（令和 5 年度）

事業計画書

自：2023 年（令和 5 年）4 月 1 日

至：2024 年（令和 6 年）3 月 31 日

法人本部事業計画

社会情勢による物価高騰のため、経営環境は悪化している。また本年4月より、多くの業態、企業が賃上げを行うために益々採用が困難になっている。

今般、各拠点に分かれていた事務部門を法人本部に一本化し、業務省力化、ICT化、専門人材育成、職務分担の明確化等を目的に作業を行っている。そのために、組織図、職位、会議を刷新したのでご承認をお願いしたい。

給与制度・人事考課制度の見直しを行っている。人事交流、人材育成・確保が有利になるように、また、処遇改善費等のために収支差額が確保できなくなっており改善を行いたい。

現在、法人本部一本化の途中で、充分準備ができていない。法人本部規程を提案するが、作業途中であることをご理解いただきたい。これにともない他の規程類も今後改定していく。

まこと保育園のこども園化にともなう補助金が、待機児童が0人となったため江東区で利用できなくなった。しかし、こども園化は引き続き行政に可能性を打診しており、明確になり次第報告いたします。

2023年度 まこと保育園 事業計画

【 2023年度の展望と重点目標 】

2022年6月、2019年から準備を進めてきた「大規模修繕にかかわる子ども園化計画」の申請を江東区保育計画課に提出したが、11月、大規模修繕にかかる補助金申請は却下された。理由は待機児童が解消されたため。子ども園化についての許認可は江東区学務課（教育委員会）経由で「東京都」が行うので、子ども園化については今後も折衝を続けていく。2020年度から続いた新型コロナウイルス感染もようやく落ち着き始め、23年度は徐々に日常を取り戻し始める予定であるが、コロナ下での体験から様々な分野で新しい形も見え始め（行事、ICT化など）、改めて見直していく年となる。

法人本部の組織再構築に伴い、園の組織についても再構築の年となる。この1～2年で給与規定、人事評価制度を含めた法人一本化を進める。今後の計画を見据え、事業承継も視野に入れての職員体制づくり、意識作りの準備も進めていく。また、コロナ下で協働体験が減ったために園への理解も薄くなっている傾向が見受けられるので、園からの発信、保護者とのコミュニケーションを深めることに力を注ぐ。また、一時保育、子育てひろば等、地域の子育て家庭の支援も、地域に求められている大きな働きであるため、引き続き力を注いでいく。また職場環境のICT化を進めながら、職員の労働状況の改善もすすめて、今後の選ばれる園づくりのためのさらなる保育の質の向上も、職員一同とともに探っていきたい。

●取り巻く環境：コロナの影響の余波は？（延長保育、一時保育、地域活動）

江東区の保育方針の転換（拡大から抑制へ）による受け入れ人数弾力化の段階的終了（2020年度107名、2021年度105名、2022年103名、2023年度101名、最終的に99名へ）など、減収が見込まれるので、収入の増加を図る

⇒ 一時保育の受け入れ増加、季節キャンプの再開など。

●保育ICT化

- ・キッズビューシステムの機能拡大
保護者ツールの導入、保育帳票類の作成

●継続的な人材育成

- ・新入職員への研修（OJT:園の方針や保育観、子どもへの関わりの観点、仕事の手順等）
- ・配属クラスでの丁寧な関わり（コミュニケーション）
- ・定期的なカンファレンス、面談
- ・行事などの役割をもつことで他職員との関わりの場を増やし、業務意識の広がりや帰属意識を育む
- ・職員会議等での「理念」「保育」についての学び（コミュニケーション会議）を深める

●外部への広報活動を行う

- ・HP、採用HPの更新、SNSの更新、地域への園案内の設置など

●2025年4月開園予定のこども園化計画にむけて、折衝を続ける。

こども園準備室

- 図面の整備（仮園舎、本園舎）、保育・労務などの仕組みの準備
- 職員とのイメージの共有、体制の具体的な検討
- 保護者への丁寧な情報共有、キッドスクールとの連携

●新しい場所（えんみち）でひろば「ころころ」を通して地域の子育てサポートを展開する。

●法人本部機能の再構築による、園内組織の再構築に向けての準備を行う。（給与制度、評価制度）

【 施設概況 】

●園児

さくらんぼ組（0才児） … 12名（定員12名）
 いちご組（1才児） … 15名（定員15名）
 もも組（2才児） … 18名（定員18名）
 つき組（3・4・5才児） … 28名（定員27名）
 ほし組（3・4・5才児） … 28名（定員27名）

合計 101名（定員99名）

どんぐり組（一時保育・0～5才児） … 定員：1～5歳児10名／日 0歳児3名／日

●職員

1, 職員構成

a, 職員組織図・人員

法人本部 事業部長					
園長：1名					
給食室 栄養士:1名 リーダー:1名 他4名 (内パート1名)	看護 1名	保育主任：1名			こども園準備室 1名 (園長補佐兼務)
		保育室 各クラスリーダー 5名 他24名 (内パート9名)	一時保育 リーダー：1名 他5名 (内パート4名)	子育て支援 リーダー：1名 パート1名	

ほか、チャプレン、嘱託医、歯科嘱託医師

b, 職員数 保育士 常勤24名 非常勤 9名
 その他 常勤6名 非常勤 2名 合計 45名

c, 休暇・退職・採用予定者等

- ① 2023年度育休職員 2名（4月～）；看護師、栄養士
- ② 病気休職中 2名（保育士）
- ③ 2022年3月退職者 なし
- ④ 待遇変更 なし

d, 4月採用予定者 2名予定（常勤保育士、産休代替看護師）
 3名（非常勤保育士2名、産休代替栄養士1名）

2, 職務分担

園長 : 中川信枝
 主任保育士 : 仲村まゆみ
 さくらんぼ組（0歳児12名） : 5名 非常勤4名
 いちご組（1歳児15名） : 4名 非常勤2名
 もも組（2歳児18名） : 3名 非常勤2名
 つき組（3・4・5歳児27名） : 3名（要支援児1名） } 幼児フリー3名
 ほし組（3・4・5歳児28名） : 3名（要支援児2名） } （要支援児担当）
 どんぐり組（一時保育） : 2名 非常勤3名
 子育てひろば「ころころ」 : 1名 非常勤1名

深川愛の園 事業計画

1. 事業概要

① 事業を取り巻く環境

- 2024 年度介護保険法改定（医療・障害含めトリプル改定）に向け、2023 年度に大きな動きは無いが、自立支援・重度化防止の推進、科学的介護（LIFE）の推進が今後加速する。
- 2022 年 2 月から始まったロシアによるウクライナ侵攻は、3 年に及ぶ新型コロナのまん延と重なり、物価・エネルギー価格の高騰が顕著となり、国が進める労働者の賃上げも含め、中小企業を悩ませている。
- 近隣では、2 施設の特養で移転増床があり、特養入居者、デイ利用者の稼働低下に少なからず影響があった。現状維持ではなく、デイに続き、特養でも「選ばれる」施設に進化をすることが増々重要となる。
- 日本の総人口、生産人口、出生数の減少は大きな影響あり。社会全体で採用が困難な時代に突入しているが、紹介・派遣会社に頼らず、2023 年度（第二含む）新卒は 5 名（全員 20 代、外国人 3 名）を採用。
- 社会福祉連携推進法人制度が施行され、経営マネジメント、人財の採用・育成等、ますます法人・施設運営の在り方が問われている。

② 事業の課題

- (1) 管理職候補等の人財不足
- (2) 将来の費用の積み立て不足と不十分な運転資金
- (3) 建物設備、備品等の老朽化と非効率な職場環境

2. 事業計画

- (1) 人財育成の仕組みづくり、人財採用のさらなる推進
 - ・施設の職員育成方針・計画、キャリアパス・研修カリキュラムを周知
 - ・リモート等研修受講推進
 - ・定期採用 3～5 名
- (2) 必要な収益の確保
 - ・各部門の目標利用者数獲得、目標稼働率達成
 - ・目標収益 2000 万円、うち積立 1000 万円、運転資金 2 か月分確保
- (3) 職場環境、建物設備の整備
 - ・ICT 化の推進（業務改善）

- ・年度内デイ移転、開設
- ・備品（車イス、低床ベッド）、劣化した建物・設備の計画的更新
- ・法人本部の機能強化、人事制度改定への協力

以上

善福寺愛の園事業計画（案）

□サービスの重点項目

（認知症対応型通所介護）

令和4年度、介護者の健康不調により利用者の在宅生活が不可能になるという形での終結者が4名。コロナ感染により利用者本人が入院、退院が不可能になるケースが3名。健康を害する形で終結となった利用者が多く、年未年始に稼働が大きく低下した。3月現在、利用者の登録者は回復に向かっているが、土日稼働が低下したまま。

（グループホーム）

令和4年度、入居者3名が逝去。長期入院により医療処置の必要が生じホームでの生活が不可能になった方が2名。合計5名の終結者が出た。過去に例のない終結者の数で、稼働が大幅に低下した。3月中には満床の予定。利用者の健康管理・待機者の管理を徹底し、令和5年度は安定した稼働を目指す。

（「買い物サロン、とくし丸」「クレープ屋・たこ焼き屋」）

木曜日の14:45～15:15、善福寺愛の園利用者と地域住民のための買い物支援に再度力を入れる（コロナ禍で活動を縮小していた為）地域住民の方が常時4～5人は集うサロンに再構築。クレープ屋、たこ焼き屋のキッチンカーの招致による地域活性化等施策の実施。

□事業内容

- ・認知症対応型通所介護・・・12名定員
- ・グループホーム・・・9名定員

□職員構成（2020.4～2023.3、退職者ゼロ）

- ・常勤職員・・・5人
- ・パートナー職員・・・14人

37歳の介護福祉士の男性1名、職員紹介採用

□地域状況（杉並区）

- ・規模・・・人口59万人、世帯数49万世帯、高齢人口率20.1%

- ・成長性・・・ 人口増減率 104.8% (2015-2020)

□人員計画 (採用・教育)

- ・パートナー・・・ 職員の紹介採用
- ・常勤・・・ パートナーからの昇格
- ・管理層・・・ 砧・善福寺のチーム管理 (対象職員 2名)

2023 年度 善福寺愛の園事業計画

□事業内容

- ・認知症対応型通所介護・・・12名定員
- ・グループホーム・・・9名定員

□職員構成（2020.4～2023.3、退職者ゼロ）

- ・常勤職員・・・5人
 - ・パートナー職員・・・14人
- 37歳の介護福祉士の男性1名、職員紹介採用

□地域状況（杉並区）

- ・規模・・・人口59万人、世帯数49万世帯、高齢人口率20.1%
- ・成長性・・・人口増減率104.8%（2015-2020）

□人員計画（採用・教育）

- ・パートナー・・・職員の紹介採用
- ・常勤・・・パートナーからの昇格
- ・管理層・・・砧・善福寺のチーム管理（対象職員2名）

□サービスの重点項目

（認知症対応型通所介護）

令和4年度、介護者の健康不調により利用者の在宅生活が不可能になるという形での終結者が4名。コロナ感染により利用者本人が入院、退院が不可能になるケースが3名。健康を害する形で終結となった利用者が多く、年末年始に稼働が大きく低下した。3月現在、利用者の登録者は回復に向かっているが、土日稼働が低下したまま。

（グループホーム）

令和4年度、入居者3名が逝去。長期入院により医療処置の必要が生じホームでの生活が不可能になった方が2名。合計5名の終結者が出た。過去に例のない終結者の数で、稼働が大幅に低下した。3月中には満床の予定。利用者の健康管理・待機者の管理を徹底し、令和5年度は安定した稼働を目指す。

（「買い物サロン、とくし丸」「クレープ屋・たこ焼き屋」）

木曜日の14:45～15:15、善福寺愛の園利用者と地域住民のための買い物支援に再度力を入れる（コロナ禍で活動を縮小していた為）地域住民の方が常時4～5人は集うサロンに再構築。クレープ屋、たこ焼き屋のキッチンカーの招致による地域活性化等施策の実施。

2023 年度 砧愛の園事業計画

□事業内容

- ・小規模多機能型居宅介護・・・25名定員（通い15名、泊り9名）
- ・グループホーム・・・9名定員

□職員構成

- ・常勤職員・・・6人
- ・パートナー職員・・・15人

□地域状況（世田谷区）

- ・規模・・・人口94万人、世帯数49万世帯、高齢人口率20.1%
- ・成長性・・・人口増減率104.5%（2015-2020）

□人員計画（採用・教育）

- ・福祉の仕事就職フォーラムへの参加
- ・求人無料媒体「みんなの介護」「ジョブコロ」への掲載
- ・管理層・・・砧・善福寺のチーム管理（対象職員5名）

□人材育成

- ・施設内、外の研修の充実
- ・管理者候補の育成
- ・資格取得の支援

□サービスの重点項目

（小規模多機能）

病院退院・老健退所支援。施設入所が既定路線の方の在宅回帰を1年単位で計画し実行。実績を積み上げ砧愛の園のブランディングを行う。

（グループホーム）

ユマニチュードの実践。心を重視したケアを標榜する。利用者、家族から絶対的な信頼を勝ち得る証としてクレームゼロを目指す。

（「きぬたんカフェ」※地域交流スペース）

定休日（週1日）と年末年始以外、毎日開催。オリジナルキャラきぬたんの地域への周知。

□事業の差別化

- ・地域交流・・・行政・地域包括はもとより生活クラブ、地域商店、自治会、地域団体との独自のネットワークを構築済。介護施設の枠を超えた地域貢献の展開。
- ・シェア・・・善福寺・砧で人員をシェアして安定した体制構築。